

平成 29 年度 教育研究計画

学校教育目標

仲間とともに輝け三中
—果敢に挑戦する生徒の育成—

1 研究主題

資質・能力の育成をめざした学びの創造
—ピア・サポートを活用した授業の工夫を通して—

2 主題設定の理由

(1) 中教審答申より，学習指導要領改訂の方向性について

- ①「何ができるようになるか」 ②「何を学ぶか」 ③「どのように学ぶか」
- ④「子供一人一人の発達をどのように支援するか」 ⑤「何が身に付いたか」
- ⑥「実施するために何が必要か」

を考え，カリキュラム・マネジメントを行っていく必要がある。

キーワードは「主体的・対話的で深い学び」の実現。

「対話的」になるためには，話し方・聞き方のスキルを身につけるのはもちろん，対話のできる人間関係づくりが不可欠である。また，「対話」の内容もペアワーク，教え合い，討論など様々であり，教科の特性や生徒実態に合わせて選択することが重要である。

しかし，この「対話的」にこだわるがために，話し合いをしていれば主体的な学びになるといった考えは否定されている。

そこで，本校は広島県の提唱する「主体的な学び（学習者基点で能動的で深い学び）」を追求していく。

(2) 新3年の諸調査の結果

「基礎・基本」定着状況調査の通過率は，英語でタイプⅠ，Ⅱともに県平均を上回る。

他の教科はすべて県平均を下回った。特に，タイプⅡは3教科とも県平均より5%以上通過率が低い。

教科	国語Ⅰ	国語Ⅱ	数学Ⅰ	数学Ⅱ
正答率	72.4	54.9	65.9	51.8
教科	理科Ⅰ	理科Ⅱ	英語Ⅰ	英語Ⅱ
正答率	52.8	42.5	73.1	53.8

平成28年度標準学力調査において国語，英語では基礎・活用とも全国平均を上回る。社会の活用，理科の基礎，数学の基礎・活用で全国平均を下回る。特に数学では基礎で10%近く下回っており，基礎学力に課題が大きい。

国語	全体	基礎	活用	社会	全体	基礎	活用	数学	全体	基礎	活用
本校	66.5	66.0	68.0	本校	50.9	51.8	46.4	本校	51.4	56.8	30.6
全国	64.0	63.5	65.8	全国	50.0	50.6	47.1	全国	60.1	66.4	35.7

理科	全体	基礎	活用	英語	全体	基礎	活用
本校	52.6	52.5	52.6	本校	58.6	63.9	45.3
全国	54.3	55.5	48.5	全国	53.2	59.1	38.7

(3) 新2年の諸調査の結果

平成28年度標準学力調査において、数学の基礎・活用のみ全国平均を下回る。

国語	全体	基礎	活用	社会	全体	基礎	活用	数学	全体	基礎	活用
本校	66.6	71.1	50.5	本校	54.9	55.5	52.0	本校	55.6	58.6	43.4
全国	63.9	68.8	46.4	全国	54.4	55.5	48.7	全国	58.4	61.5	45.9
理科	全体	基礎	活用	英語	全体	基礎	活用				
本校	61.6	64.8	46.2	本校	64.6	69.9	51.4				
全国	57.8	60.2	46.2	全国	61.2	66.8	47.3				

(4) 平成28年度「基礎・基本」定着状況調査の生徒質問紙調査における「学びの変革」パイロット校事業の検証に用いる質問事項

(13)「授業では、解決しようとする課題について『なぜだろう』、『やってみたい』と思います。」は広島県集計より12.7ポイント低く、(17)「授業では、自分の考えを積極的に伝えています。」も、10.5ポイント低かった。

	肯定的	否定的		肯定的	否定的		肯定的	否定的
(8)	42.4	57.6	(17)	43.2	56.8	(23)	60.4	39.6
(9)	56.8	43.2	(18)	65.5	34.5	(24)	76.3	23.7
(13)	66.9	33.1	(19)	52.5	47.5	(25)	82.0	18.0
(14)	74.8	25.2	(20)	53.2	46.8	(26)	56.8	43.2
(15)	39.6	60.4	(21)	64.7	35.3	(27)	60.4	39.6
(16)	46.8	53.2	(22)	62.6	37.4			

2月に実施した同様のアンケートでは、(13)の項目が82.7%に向上した。

以上のことより、本校生徒に関して、数学・理科など資料や公式などを活用して考える教科に課題が大きいことがわかる。また、基礎で平均を下回る教科については、必要な知識を定着させるための取組が必要であり、授業内でのピア活動による教え合いやモジュール学習と家庭学習を連携させた、継続的な予習復習が重要になる。さらに、教科横断的に課題解決に取り組むことで、課題である資料等の活用能力を向上させたい。

3 研究の仮説

- (1) 各教科等 資質・能力を育成する手段として、教科グループによる課題発見・解決学習を取り入れた単元カリキュラムの開発、授業の実施改善を繰り返すことで、主体的な学びを促す授業づくりができ、生徒の生きる力を向上させることができる。
- (2) 授業の予習・復習 GK学習（モジュール学習）の充実と、GK学習と連動させた家庭学習（自主

勉ノート等)に取り組むことによって、課題を解決するために必要な基礎的知識・技能を定着させることができる。

4 研究の具体的内容

- (1) 課題発見・解決学習を取り入れた単元カリキュラム開発：一人一単元
- (2) 「学びの変革」パイロット事業の公開研究会および教育創造プランブロック公開研
- (3) 校内研修の充実：校内授業研一人1回、「学びの変革」理論研修など
- (4) 10分間のモジュール学習の充実とその内容に関わる家庭学習との連携 *別紙4

5 達成目標

(1) 質問紙調査

生徒質問紙(別紙2)	1 授業の内容がよく分かる	85%以上
	2 「なぜだろう」、「やってみたい」と思います	80%以上
	8 自分の考えを積極的に伝える	6月比+10ポイント
	14 友達と話し合い、考えを深め広げている	6月比+10ポイント
アセス(別紙3)	向社会的スキル	80%
	生活満足感	80%

(2) 学力調査

標準学力基礎・活用 全国平均以上

(3) 課題発見・解決学習の単元カリキュラム開発

全教科：一人1単元以上
各学年：総合的な学習の時間（キャリア学習）

6 『学びの変革』に関わって

(1) 学びの変革の背景

生徒を取り巻く社会は今後も大きく変化し続けていく。その社会の中で、生きていくために資質・能力を身につけ、伸ばす必要がある。

育成すべき資質能力

知識	知識・情報
スキル	課題発見・解決力，企画力・創造力，知識・情報活用能力， 論理的・建設的批判能力，思考力・判断力・表現力，実行力，交渉力， 語学力・コミュニケーション能力
意欲・態度	協調性・柔軟性，リーダーシップ，責任感，主体性・積極性，チャレンジ精神 回復力・耐える力，多様性に対する適応力
価値観・倫理観	自らへの理解と自信，異文化理解・共感力，日本人としてのアイデンティティー， 公共心，グローバル社会を生き抜く高い志・使命感，人としての思いやり， 優しさ，感性

三中として、とくに育成を目指す資質・能力

- | | | |
|-------------|--------------------|-------------|
| ④ 来に通ずる基礎学力 | ② 人間関係形成能力 | ③ 課題発見・解決力 |
| ④ チャレンジ精神 | ⑤ 忍耐力（耐える力、レジリエンス） | ⑥ 人としての思いやり |

この6つの資質能力について、三中での教育活動、特にピア・サポートを通じたキャリアに関わる学習を通して、目指す姿を各学年、各学期で次のように考える。＊要検討

② 課題発見・解決力

	1学期	2学期	3学期
1年	自分の夢(将来・進路)について関心や疑問を持てる。	関心ある分野の情報や疑問を解消するための知識・能力を得ようとする。	将来に対する疑問を解決するための知識や情報を身につけている。
2年	将来に対して多くの選択肢を考え、目標を定めようとする	目標を定めるために、自身の特性や適性を知る。	多くの選択肢から、自身の興味や特性を考え、目標を設定する。
3年	将来の目標を明確にし、そのための情報を幅広く収集している。	将来の目標の達成にむけた、知識・情報を身に付けている。	将来の目標を明確に持ち、目標の達成に向けた方法を考え、見つけようとする。

③ 人間関係形成能力

	1学期	2学期	3学期
1年	あいさつ・適切な言葉遣いを意識した関わり合いができる。	相手に合わせて、適切に自分の思いや考えを表現しようとする。	自身の思いや考えを適切な方法で表現できる。
2年	自身の思いや考えを適切な方法で表現でき、相手の話も聞こうとする。	自身の思いや考えを適切な方法で表現でき、相手の話を理解しようとする。	自身の思いや考えを適切な方法で表現し、相手の言葉も聞き入れることができる。
3年	自身の思いや考えを適切な方法で表現し、相手の言葉も聞き入れることができる。	自身の思いや考えを適切な方法で表現し、相手の思いを認めようとする。	自身の思いや考えを適切な方法で表現するとともに、相手の思いも柔軟に受け止め認めることができる。

④ チャレンジ精神

	1学期	2学期	3学期
1年	興味のある活動、教科等を見つける。	自分の興味に沿って努力し、成果を出そうとする。	より良い成果を出すために、自分なりの工夫をしようとする。
2年	より良い成果を出すために、自分なりの工夫をする。	自身の目標を明確にする中で必要な力について考える。	自身の目標を達成するために必要な力を明確にする。
3年	自身の目標の達成に向け、必要な能力を身に付けようとしている。	自身の目標の達成に向け、必要な能力を身に付けようとしている。	自身の目標の達成に向け、必要な能力を身に付けようとしている。

⑤忍耐力

	1学期	2学期	3学期
1年	集団生活のルールに則って行動する。	集団の中での自分の行動を省みることができる。	自身の学校生活を省みて、より良い行動・方法を模索する。
2年	自身の学校生活を省みて、より良い行動・方法を考え行動する。	自身の学校生活を省みて、より良い行動・方法を考え行動する。	自身の学校生活を省みて、より良い行動・方法を考え行動する。
3年	目標の達成に必要な力を身につけるため、自ら考え工夫し、行動することができる。	目標の達成に必要な力を身につけるため、自ら考え工夫し、行動することができる。	目標の達成に必要な力を身につけるため、自ら考え工夫し、行動することができる。

⑥人としての思いやり

	1学期	2学期	3学期
1年	困っている友人へ声掛けができる。	困っている友人に対して、適切な手助けの方法を考えようとする。	友人間での教え合いや、支え合いができる。
2年	所属する集団の課題に主体性を持って考えようとする。	所属する集団で自分にできることを考え、実行しようとする。	所属する集団の中で、自分の役割を果たそうとし、手助けができる。
3年	自分と身近な社会との関わりを考え、その中で自分がしたいこと、できることを見つける。	身近な社会との関わりを考え、主体性を持って行動しようとする。	自分と身近な社会とのかかわりを意識する中で、自分の役割を考え、社会へ貢献しようとする。

(2) 授業の捉え方について

上記(1)の教育活動を通じて目指す姿に向けて、「各教科等をどのように関連させていくか」、「各教科等ではどのような姿を目指すか」を、より短い期間で継続的に考えていく。

意識したい授業の姿

教え込み型（インプットだけ）⇒インプットした知識・技能を使うアウトプットの場面がある授業

ただし、知識・技能が定着していない段階でアウトプットはハードルが高い。

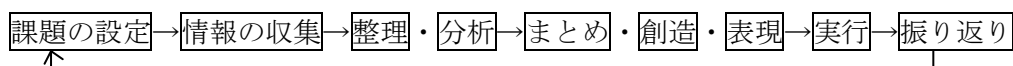
課題発見・解決をさせるタイミング・方法が大切。

「対話的」についても同様に、毎回すればよい、毎回しないといけないというわけではない。より効果的なタイミングや方法を試行錯誤しながら見つけていく。

課題発見・解決学習

主体性を持たせる方法としての「課題発見・解決学習」である。生徒が自ら知りたい・学びたいと思う教材・題材をいかに設定していくか、その中で個々に感じた疑問等を単元を通して学んでいく。

課題発見・解決の過程のスパイラル構造



生徒自身が課題を解決していく中で、また新たな課題を発見し、解決しようとするのが理想である。

H29 GKタイム計画表

(1) 時間：15：40～15：50 10分間

基本的に月～金プリント学習

金曜日にテスト（自己採点）⇒30%未満の生徒には、再テストまたは週末課題が課せられる。

教科の順番は 国⇒社⇒数⇒理⇒英

*1・2学期は全学年同じ予定表，3学期は学年ごとの予定表を作成する。

*テスト合格ラインは各教科・各テストで変動させてもよい。

(2) プrintの内容と準備について

基本的に各学年の教科担当が準備

内容

- ・生徒の学習内容や実態に合わせてプリントを準備する。
- ・表面には基礎的な問題，裏面には応用問題（早くできた生徒，学力の高い生徒向け）を印刷する。
- ・7～8分取り組み続けられる量を考える。
- ・時期に合わせた問題（定期テストや標準学力調査など）も取り入れていく。

*東書データベースの利用は継続できる。

準備のしかた

①次の週に実施するプリントを水曜日までに，教科担当が準備（問題・解答1部ずつ×4回分，テスト問題・解答1回分）し，各クラス生徒分印刷を教務事務支援員に依頼する。

②印刷したものを教科担当に渡す。

③教科担当は，各学年GK置き場に設置する。

*教務事務支援員への依頼が遅れた場合は，教科担当で印刷も行う。

学年で準備してほしいもの

①GKファイル（A4） 生徒分⇒プリントを綴じる

②GKプリント置き棚 ⇒各クラスGK係が毎日取りに来られる場所に固定

*GKファイルは，机横に掛けた黒袋に入れておく。

(3) 再テスト

対象：金曜日のテストで30%未満の生徒

時間：次の週の月曜日（月曜が休みの場合火曜，とにかく週の初めの日）の昼休憩や放課後

場所：各学年の多目的教室など *学年で決めてください。

対応：教科担当，担任，副担任など *学年で決めてください。

*不合格の生徒には，再々テストや課題プリントをさせる。

(4) 週末課題

対象：金曜日のテストで30%未満の生徒

提出：テストの次の週の月曜日（月曜が休みの場合火曜，とにかく週の初めの日）

内容：その週に学習した内容のプリント数枚（既に学習済みのプリントやGKテストでもよい）

準備：準備の流れは、プリントと同じ

*金曜日のテストの結果がわからない時点での準備になるので，多めに準備しておく。

*必ずやらせる。やらせきる。